

2021年11月15日

各 位

EAファーマ株式会社
キッセイ薬品工業株式会社
(コード番号 4547:東証第1部)

**潰瘍性大腸炎治療剤「レクタブル[®]2mg注腸フォーム14回」および
AJM300(一般名:カロテグラストメチル)の販売体制変更に関する契約締結のお知らせ**

EAファーマ株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:藪根英典、以下「EAファーマ」)とキッセイ薬品工業株式会社(本社:長野県松本市、代表取締役会長兼最高経営責任者:神澤陸雄、以下「キッセイ薬品」)は、潰瘍性大腸炎治療剤「レクタブル[®]2mg注腸フォーム14回」(一般名:ブデソニド、以下「レクタブル[®]」)および国内製造販売承認申請中の潰瘍性大腸炎治療薬AJM300(一般名:カロテグラストメチル)について、販売体制変更に関する契約を締結したことをお知らせいたします。

レクタブル[®]については、2015年3月に締結した国内における共同開発および共同販売に関する契約に基づき、EAファーマが製造販売承認を取得し、2017年12月より、EAファーマとキッセイ薬品がそれぞれ販売をしております。また、AJM300につきましても、2015年3月に締結した契約に基づき、本年5月にEAファーマが製造販売承認申請を行い、承認取得後は、EAファーマとキッセイ薬品がそれぞれ販売することとしておりました。この度の販売体制変更に関する契約は、それぞれの製品について、一社が販売し、他方がコプロモーションを行う体制に変更するものとなります。

本契約締結に伴い、レクタブル[®]については、2022年4月1日よりEAファーマが販売を行い、キッセイ薬品がコプロモーションを行います。また、AJM300は、製造販売承認取得後、キッセイ薬品が販売を行い、EAファーマがコプロモーションを行う予定です。なお、両製品ともに製造販売元は引き続きEAファーマとなります。

EAファーマとキッセイ薬品は、販売体制変更後も潰瘍性大腸炎治療の選択肢を広げ、患者様とご家族のQOL向上に、より一層貢献できるよう努めてまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ先	
EAファーマ株式会社 経営企画部 TEL: 03-6280-9802	キッセイ薬品工業株式会社 広報部 TEL: 0263-25-9523

《参考資料》

1. EAファーマ株式会社について

エーザイ株式会社の消化器事業子会社であるEAファーマ株式会社は、エーザイグループが60年以上取り組んでいる消化器事業と、アミノ酸をコアとする味の素グループの消化器事業が、2016年4月に統合して設立された、研究開発、生産物流、営業・マーケティングのフルバリューチェーンを有する消化器のスペシャリティ・ファーマです。

EAファーマ株式会社の詳細情報は、<https://www.eapharma.co.jp/>をご覧ください。

2. キッセイ薬品工業株式会社について

キッセイ薬品工業株式会社は、「純良医薬品を通じて社会に貢献する」、「会社構成員を通じて社会に奉仕する」との経営理念のもと、創薬研究開発型企業として、世界の患者さんに独創的な新薬を提供することに注力しています。泌尿器、腎・透析、糖尿病、消化器、そして希少疾病の領域を中心に活動しています。

キッセイ薬品工業株式会社の詳細情報は、<https://www.kissei.co.jp/>をご覧ください。

3. 潰瘍性大腸炎について

潰瘍性大腸炎は、大腸の粘膜に潰瘍やびらんができる炎症性の疾患です。症状は、腹痛や下痢、下血などで、多くの場合は症状が軽快する「寛解」と悪化する「再燃」を繰り返し、患者様のQOL(生活の質)を低下させます。本疾患は、発症メカニズムが未だ解明されておらず、厚生労働大臣により「指定難病」に指定されています。国内患者数は、2019年に約22万人で、近年、増加する傾向にあります¹⁾。

1)厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班による「潰瘍性大腸炎の皆さんへ 知っておきたい治療に必要な基礎知識」(2020年3月改訂)

4. レクタブル[®]について

EAファーマがDr. Falk Pharma社(ドイツ)より導入し、EAファーマとキッセイ薬品が共同で開発を進め、EAファーマが製造販売承認を取得した日本初の泡状の注腸製剤(注腸フォーム製剤)です。泡状であるため、直腸およびS状結腸に到達した薬剤が局所に留まり、投与後に薬剤が漏れにくいという特徴があります。

5. AJM300(一般名:カロテグラストメチル)について

潰瘍性大腸炎患者様の大腸粘膜病変部位では、リンパ球をはじめとする炎症性細胞の過度な集積・浸潤が認められます。AJM300は、炎症性細胞表面に発現する $\alpha 4\beta 1$ インテグリンと $\alpha 4\beta 7$ インテグリンのどちらにも作用し、大腸粘膜の血管内皮細胞に過剰に発現する接着分子との結合を介する細胞接着反応を阻害することで、病変部位への過剰な炎症性細胞の浸潤を抑制し、抗炎症作用を発揮すると考えられています。